

# 山地農耕を未来へ継承

植物と人々の博物館



関東山地の村々の主作物は、冬でも陽当たりの良いムギジで栽培するオオムギ（表作）でした。オオムギは梅雨期の直前に熟するので、コムギのように収穫遅れで、梅雨期にかり穂発芽することが少ないから80年前に古老から聞きました。

初夏に黄金色に熟す麦類は冬雨・夏乾燥の地中海農耕文化の主要な作物です。日本に伝播してもその性質は変わらないので、麦秋は梅雨入り頃の季語です。しかし、現在、麦類の栽培は減少し、このために死寸前前の麦秋を伝統的な知識や技能により再現しました。



写真：上左から右下に、①冬の麦畑、②晩春の麦、③麦秋の始まり、④収穫後、梅雨時の穂発芽、⑤脱穀、⑥水車小屋、⑦水車の臼、⑧ひきわりと丸麦、⑨郷土食おぼく

オオムギの収穫後は、コンニャク、ヒエ、モロコシ、トウモロコシ、ササゲ、アズキ、ダイズを作付しました。一方で、冬に陽当たりが悪い畑ハルマジは、春になってからジャガイモ、夏ソバの後に、ハクサイ、ダイコン、トウモロコシ、ダイズ、または雑穀類や陸稲を作付しました。

山間地の谷間の畑は、太陽が傾くと陰になり、とりわけ冬の時期には日照時間が少ないのです。そこで、畑はできる限り陽当たりが良い南向きの山腹に作り、人家は谷間に造ることが多いようです。真冬には、室内でも水が凍ります。家族の食べ物を作ることが優先されていたのです。



上左から右下に、①雑穀栽培見本圃、②キビと里芋、③雑穀栽培講習会、④モロコシ、⑤ローカル・シードバンク藤野、⑥キヌア⑦自給農耕ゼミ藤野 雑穀の脱穀、⑧ズラマメ、⑨植物と人々の博物館ロゴ、⑩雑穀街道



生物多様性条約 COP 11 展示



## 雑穀街道を FAO 世界農業遺産に

伝統的な農作物在来品種をめぐる農耕文化、栽培、加工、調理、儀礼などは、縄文時代以来の祖先から継承してきた、現在も生きている大切な文化財である。

この山村の生活を豊かにし、男女そろっての健康長寿を支えてきた生物文化多様性がとても大事にされている地域が、私たちの暮らしている関東山地中部地域である。



中川さん、パンダ博士

松谷博士、古守博士、シタラム博士



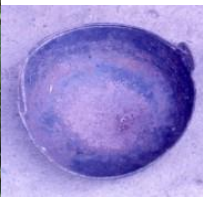
上野原町西原、降矢夫妻



橋本さんの在来品種  
シタラム博士  
松谷博士



降矢さんとシコク  
ピエ、門男、道具



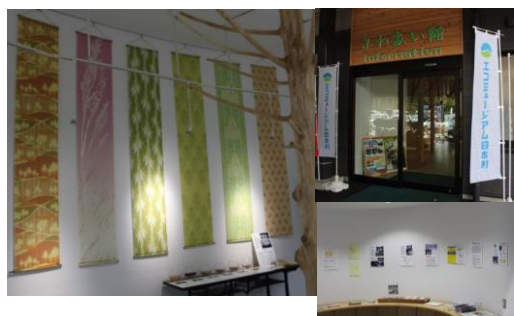
門男



上野原町西原の水車

雑穀街道の歴史、縄文から未来へと、美しく楽しい暮らしを継承する雑穀街道  
 丹波山村は水源のむら、小菅村は山女魚のむら  
 上野原市は健康長寿のまち、相模原市はトランジション・タウン

雑穀街道：道の駅小菅の展示



雑穀街道がつなぐトランジションタウン

- トランジションタウン
- エコミュージアム日本村 (トランジション小菅)
- ← 雑穀街道
- 鎌倉街道  
 東京都道18号府中町田線  
 神奈川県道・東京都道52号  
 相模原町田線  
 神奈川県道402号  
 阿久和鎌倉線
- ⇄ 中央ライン  
 湘南新宿ライン

古守・鷹嘴両先生の意見

桐原の長寿の要因

- ①長寿桐原は麦を中心とした雑穀、いも類を十分に摂取して、ビタミンB1、B6等を充実している。
  - ②全粒粉および小麦胚芽の高度活用により、ビタミンEを多量に摂取し、不飽和脂肪酸に対する比も正常値を示している。
  - ③低コレステロール食品を適当に組み合わせ、動物性食品を発達段階に応じて適量にとっている。
  - ④桐原地区特産の冬菜の常食によって、ビタミンA、C，鉄分を十分に補給している。
  - ⑤発酵食品を十分に活用し、腸内細菌を正常に保っている。
  - ⑥調理はすべて一物全体食、土産土法でなされていた
  - +⑦食物繊維多含食品を補充する。(古守・鷹嘴 1986)
- 健康・予防医学、栄養学を大切にする。ピンシャンコロリ天寿  
 マクバガン・レポート (1977)、チャイナスタディ (2004) とおおよそ同じ見解。

雑穀街道とFAO世界農業遺産セミナー

2018年4月9日(月)  
 山梨県上野原市役所 展示室3

ミレット藤野 雑穀栽培講習会



主催：NPO自然文化誌研究会／雑穀街道普及会  
 共催：農業法人藤野倶楽部、NPOさいはら、ほか



2017-5-28  
 藤野



# 山梨県栄養士会 富士・東部支部研修会

2016-11-26  
上野原市役所保健センター



Sobito 日本村塾

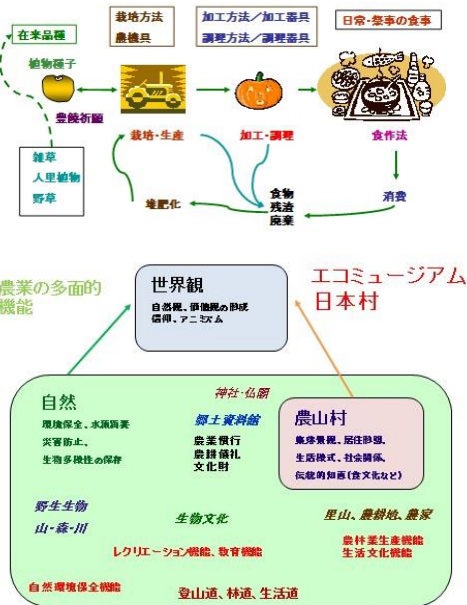
## 秋の種市

国内外のシードバンクと雑穀街道

NPO自然文化誌研究会／植物と人々の博物館  
東京外国語大学AA研究所  
木俣美樹男  
2014. 10. 9



自然から農耕文化へ  
半閉鎖循環系をつくる持続可能な農法を探る



## 第34回 環境学習セミナー

都市民が学ぶ山村の伝統的知識  
～トランジション・タウンと山麓つなぐ雑穀街道～

日時: 2014年11月8日(土)  
場所: 山梨県小菅村 中央公民館  
主催: NPO自然文化誌研究会、NPO・ECOPLUS  
共催: エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会、  
トランジション・タウン藤野  
後援: 小菅村、(社)日本雑穀協会、NPOトランジション・ジャパン  
参加費: 2000円 (通信費、資料代・茶菓代等)  
申し込み先: 自然文化誌研究会(木俣) [kimatami@u-gakugei.ac.jp](mailto:kimatami@u-gakugei.ac.jp)



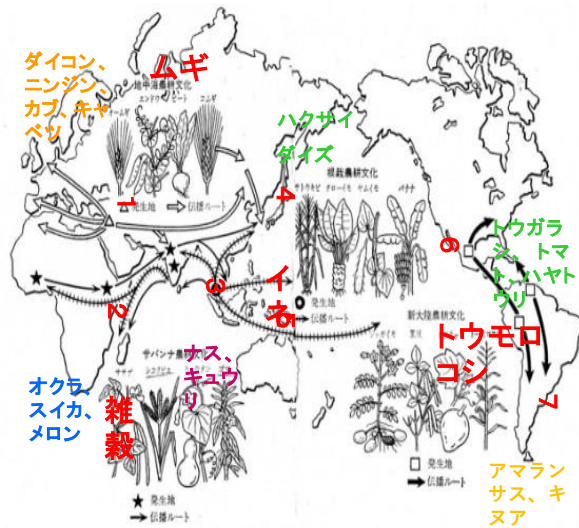
Sobito 日本村塾

この小箱に希望は残っている  
のだろうか?

多摩川市民学会 2010. 11. 21

木俣美樹男  
(財)森とむらの会／植物と人々の博物館  
インシアティヴ

4つの農耕文化 (中尾1967) と7つの  
栽培起源地 (阪本1996) および伝播  
ルート



空間と時間を考える

雑穀商品開発(小金井市)



シコクビエ10%入りのパン



小菅の湯レストランの新作メニュー

キビ・モロシの発泡酒  
「ピーゴ」、ヒエ焼酎「(稗田)阿礼の頭は冷えちゅう」  
の試作



表11.2. 日本における雑穀の栽培面積(ha)

雑穀	1900	1950	1990	2001	2002	2003
アワ	243700	66100	44	50	53	44
キビ	34100	26200	146	169	152	121
ヒエ	71900	33200	290	110	150	156
モロシ						22
ハトムギ				344	312	358
シコクビエ						trace
合計	349700	125500	480	673	667	701
ソバ				41800	41400	43500
ダツタンソバ						14
アマランサス				15	11	18

財団法人農産業振興奨励会2001~2003. 新需要穀類等生産・流通体制確立事業実績報告書

農林業センサスには1965年以降統計データがない。ハトムギ、シコクビエは減反の代替として水田栽培奨励。

相模原市緑区上岩 (2021年)



天皇家への  
献穀の儀式



縄文土器の発掘  
(小菅村)

植物と人々の博物館

展示  
森とむらの図書室

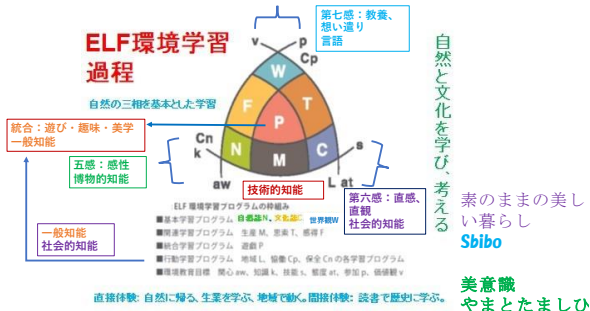
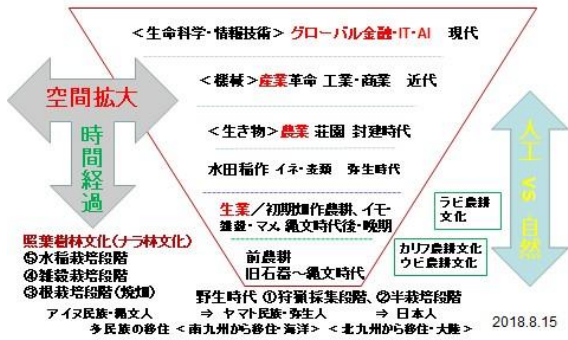


山梨県小菅村

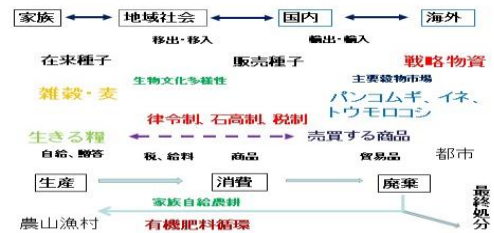
自然文化誌研究会  
植物と人々の博物館  
雑穀見本園  
いつものキャンプ場



連続的・統合的な生物文化多様性の蓄積と現代的衰退  
複雑／画一、虚無・便利(The nothing / The convenience)の超克



植物と人々の博物館



### 第16回雑穀研究会シンポジウム

9月27日(金)から9日(日)、2002年  
山梨県小菅村 中央公民館ほか



研究報告 小菅村周辺の雑穀栽培概要ほか、日本、インドネシアインドの雑穀とその栽培について、作物学、民俗学、民族植物学などの視点から(8種) 雑穀栽培農家訪問と雑穀長寿食山梨県上野原町小菅村、丹波山村  
申込み連絡先 東京学芸大学環境教育実践施設 042-329-7866 kimatami@u-gakugei.ac.jp  
後援：小菅村、多摩川源流研究所小菅村村民は 研究報告聴講無料(中央公民館、28日午前)

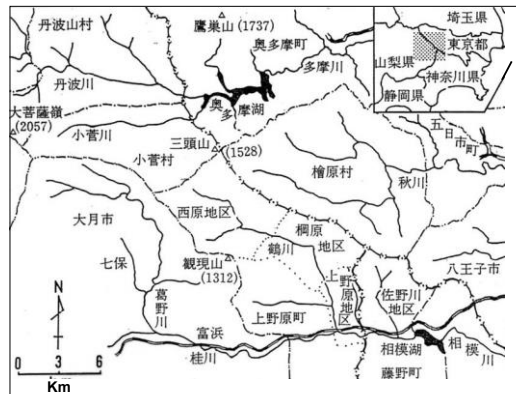
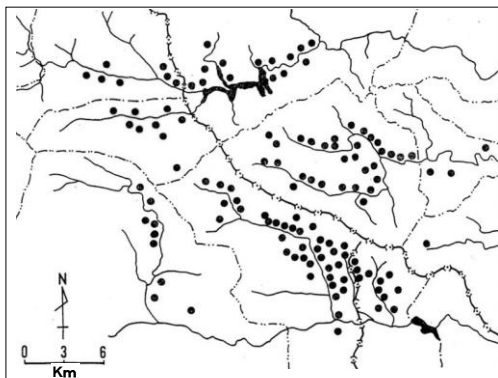


### インド亜大陸における雑穀の栽培化過程と伝播

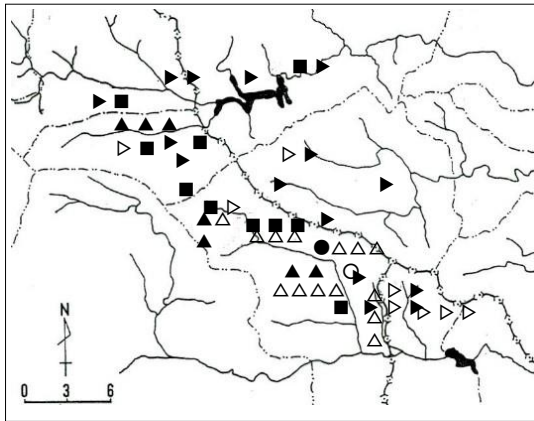
～特に、コラティSetaria pumilaを中心に～

木俣美樹男  
東京学芸大学 環境教育研究センター  
エコミュージアム日本村 植物と人々の博物館  
2012. 9. 2

### 第26回雑穀研究会シンポジウム (小菅村)

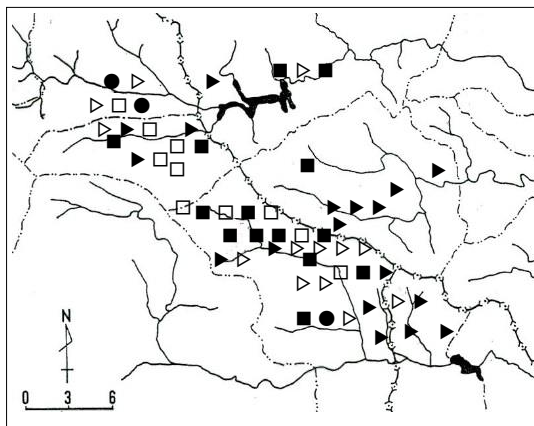


関東山地中部の調査地域における 123 集落の分布位置 (1980 年)



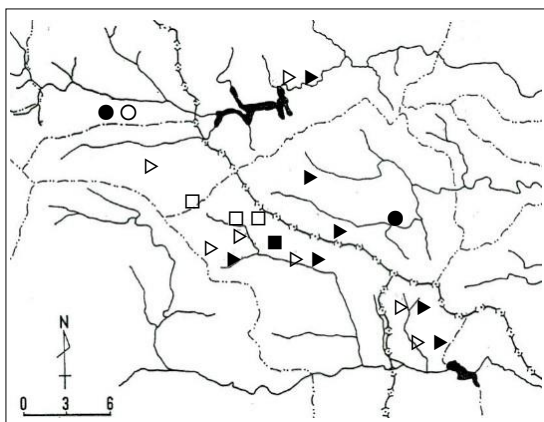
アワを栽培する集落の分布の推移

モチアワ栽培集落 ; ▲1980, ●2000, ■1980/2000 : メシアワ栽培集落 ; △1980, ○2000, □1980/2000.



キビおよびモロコシを栽培する集落の分布の推移

キビ栽培集落 ; ▲ 1980 , ● 2000, ■1980/2000 :  
モロコシ栽培集落 ; △ 1980, ○2000, □1980/2000.



ヒエおよびシコクビエを栽培する集落の分布の推移

ヒエ栽培集落 ; ▲ 1980, ●2000, ■1980/2000 :  
シコクビエ栽培集落 ; △ 1980, ○2000, □1980/2000.